

奈良県民の生活意識・行動等に関する調査結果(インターネット調査:2019年3月実施)

ポイント

- ①10人に1人が現居住地で「住み続けたいと思わない」と回答。転居希望先は「大阪府」27.7%が最多、「奈良県内の他市町村」は16.0%。
- ②居住地選択時に重視する条件は、「買い物などの便利さ」74.8%が最多、「病院や福祉施設の近さ」55.9%、「通勤・通学の便利さ」51.6%。
- ③県内他市町村へ転居すると仮定した場合の転居希望先は、「とくにない」38.2%が最多、「奈良市」21.4%、「生駒市」10.2%。
- ④県民の5割弱が買物や余暇活動などを楽しむために「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけている。
- ⑤奈良県内で余暇活動を楽しむ頻度は、「ほとんどない」31.4%が最多、「年に1~2回」18.7%。
- ⑥地場産・奈良県産の食材について、県民の4割が「常に・時々意識して購入している」。
- ⑦奈良県のプラスイメージは「歴史のある」71.9%が最多、「落ち着いた」51.0%。マイナスイメージは「保守的な」34.2%が最多、「不便な」30.6%、「おくれている」26.0%。
- ⑧奈良県経済等の認識は「発展・成長している」が7.6%、「衰退している」が27.4%。
- ⑨重点的に改善に取り組むべきことは、「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」40.0%が最多、「福祉・介護サービスの充実」35.1%、「生活道路の整備、渋滞の緩和」34.1%。

調査結果の留意点

- ①「n」はサンプル数（有効回答数）、又は各質問の該当者数【とくに断りのない限り「n=1000」】。
- ②四捨五入の関係で、比率の合計が100%にならない場合がある。
- ③複数回答の質問では、回答者総数を分母に構成比を算出しているため、百分率の合計が100%を超える場合がある。

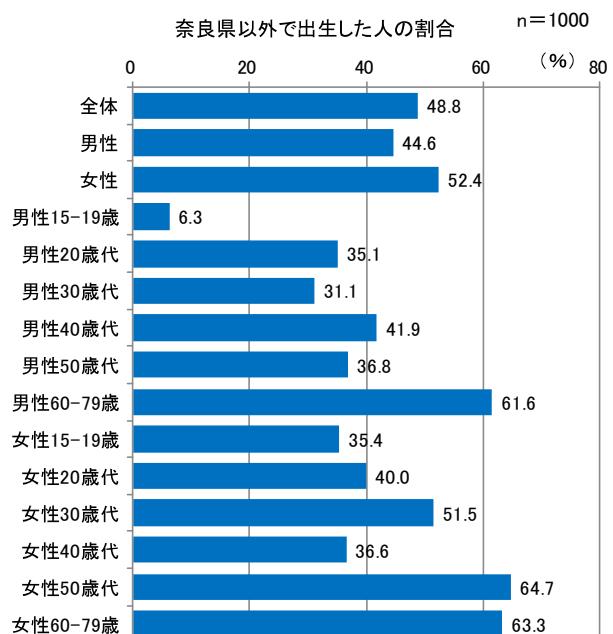
1

奈良県での居住状況

1. 奈良県以外で出生した人の割合・出生地等

回答者の出生地を聞いた結果、奈良県以外で出生した人は全体（n=1000）の48.8%。性年代別でみると、男性60-79歳、女性50歳代・60-79歳で6割とやや多い。

奈良県以外で出生した人の出生地（n=488）は「大阪府」40.6%が最も多く、次に「兵庫県」8.0%、「京都府」5.1%、「岡山県」3.3%、



「三重県」「広島県」「福岡県」各2.7%、「東京都」「愛知県」「和歌山県」各2.0%が続いている。上位5府県で全体の59.7%を占めている。

また、奈良県以外での1年以上の居住経験がある人は全体の59.9%。性年代別でみると、男性・女性とも60-79歳で約8割とやや多い（図表掲載省略）。

2. 奈良県への転居理由

県外出生者（n=488）に奈良県への転居の理由（複数回答）を聞いた結果、「本人（家族）の仕事の都合のため」27.0%が最も多く、次いで「結婚のため」21.5%、「親・親戚が奈良県に住んでいるため」17.8%、「通勤や通学など交通の便が良いため」11.9%、「県外よりも安く住宅を取得できたため」10.9%、「公園など自然が多い地域であるため」9.4%、「魅力的な物件があったため」9.2%が続く。

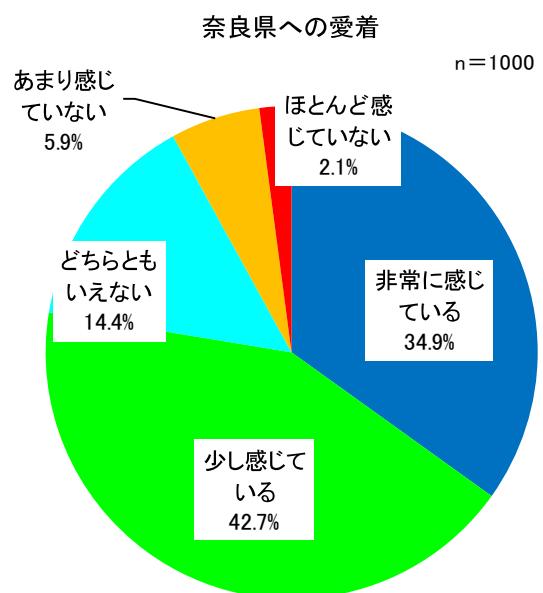
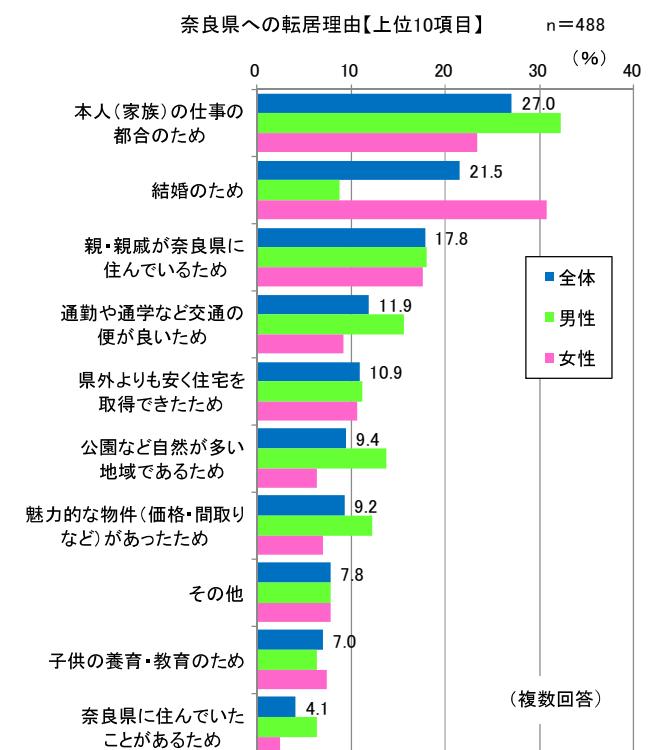
性別でみると、男性は「本人（家族）の仕事の都合のため」32.2%が最も多い〔他の理由は20%未満〕。女性は「結婚のため」30.7%が最も多く、次いで「本人（家族）の仕事の都合のため」23.3%、「親・親戚が奈良県に住んでいるため」17.7%が続いている。

性年代別でみると、女性50歳代は「結婚のため」が約4割と多く、同20歳代は「本人（家族）の仕事の都合のため」が約4割と多い。

3. 奈良県への愛着

奈良県に愛着を感じているかを聞いた結果、全体では「非常に感じている」34.9%、「少し感じている」42.7%と、「非常に」「少し」合わせて77.6%が「感じている」としている。一方、「ほとんど感じていない」2.1%、「あまり感じていない」5.9%と、「ほとんど」「あまり」合わせて8.0%が「感じていない」としている（「どちらともいえない」

14.4%）。県民の約8割が奈良県に愛着を感じているとしているが、約12人に1人は奈良県に愛着を感じていない（愛着を感じていない人は、男女とも30歳代で6人に1人とやや多い）。



4. 奈良県民であることを誇りに思うか

「奈良県民であることを誇りに思うか」を聞いた結果、肯定的（思う+ある程度思う、以下同様）な人が53.7%、否定的（さほど思わない+思わない、以下同様）な人が14.1%と、肯定は否定の3.8倍となっている。県民の約5割は、奈良県民であることを誇りに思っているが、約7人に1人は誇りに思わないとしている。

性年代別でみると、肯定的な人は男性50歳代（64.5%）、女性40歳代（60.2%）がやや多い。否定的な人は男性30歳代（21.3%）、女性30歳代（21.2%）がやや多い。

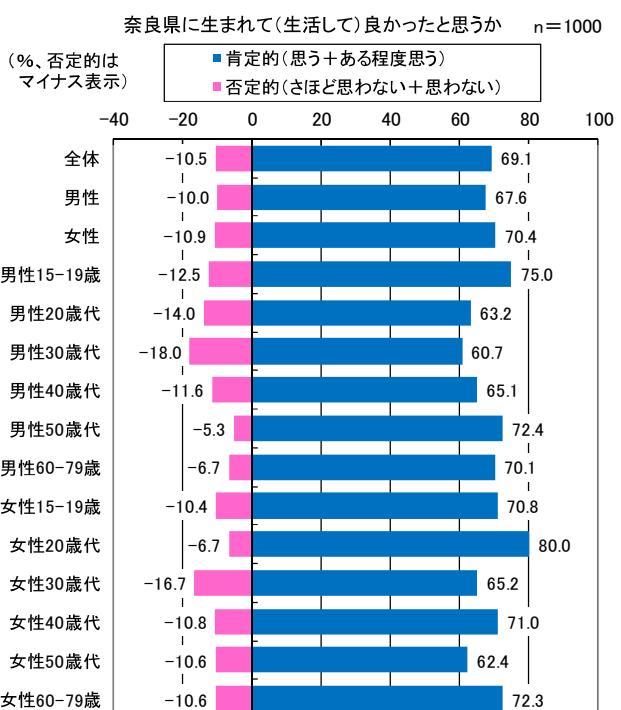
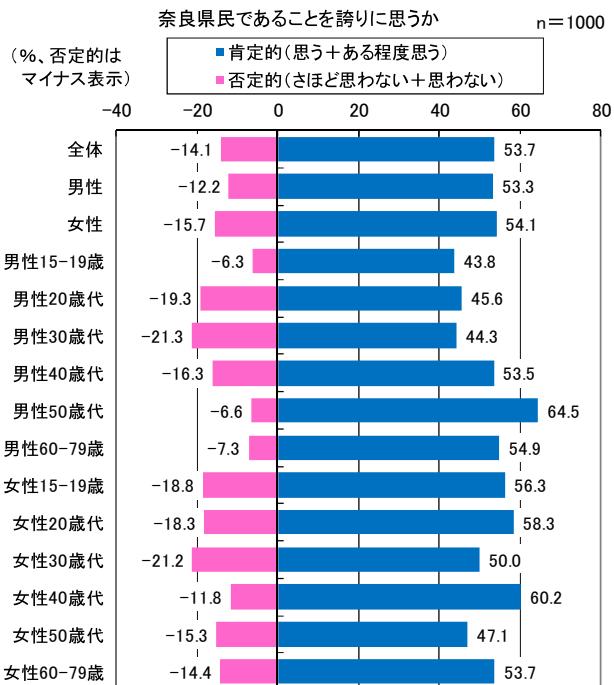
居住地域別でみると、肯定的な人は葛城市（76.0%）が最多、宇陀市（35.0%）が最少。否定的な人は香芝市（27.9%）が最多、葛城市（4.0%）が最少。

5. 奈良県に生まれて（生活して）良かったと思うか

「奈良県に生まれて（生活して）良かったと思うか」を聞いた結果、肯定的な人が69.1%、否定的な人が10.5%と、肯定は否定の約7倍となっている。県民の約7割は、奈良県に生まれて（生活して）良かったと思っているが、約10人に1人は良かったと思わないとしている。

性年代別でみると、肯定的な人は女性20歳代（80.0%）、男性15-19歳（75.0%）がやや多い。否定的な人は男性30歳代（18.0%）、女性30歳代（16.7%）がやや多い。

居住地域別でみると、肯定的な人は葛城市（84.0%）、桜井市（81.4%）が多く、宇陀市（45.0%）、御所市（45.8%）が少ない。否定的な人は宇陀市（25.0%）、御所市（20.8%）が多く、桜井市（4.7%）、天理市（6.3%）が少ない。



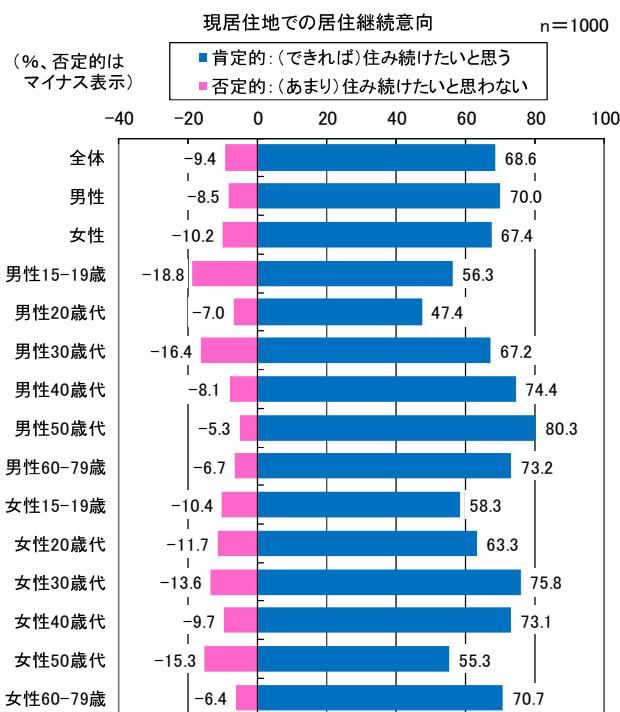
2 現居住地での居住継続意向等

1. 現居住地での居住継続意向

現在の住まいの所（現居住地）に今後も住み続けたいと思うかを聞いた結果、肯定的（住み続けたいと思う+できれば住み続けたいと思う、以下同様）な人が68.6%、否定的（あまり住み続けたいと思わない+住み続けたいと思わない、以下同様）な人が9.4%と、肯定は否定の7.3倍となっている。県民の約7割は、現居住地に今後も住み続けたいと思っているが、約10人に1人は住み続けたいと思わないとしている。

性年代別でみると、肯定的な人は男性50歳代（80.3%）が最多、男性20歳代（47.4%）が最少。否定的な人は、男性15-19歳（18.8%）が最多、男性50歳代（5.3%）が最少。

居住地域別でみると、肯定的な人は大和郡山市（77.0%）が最多、葛城市（76.0%）、天理市（75.0%）、橿原市（74.2%）なども多い。否定

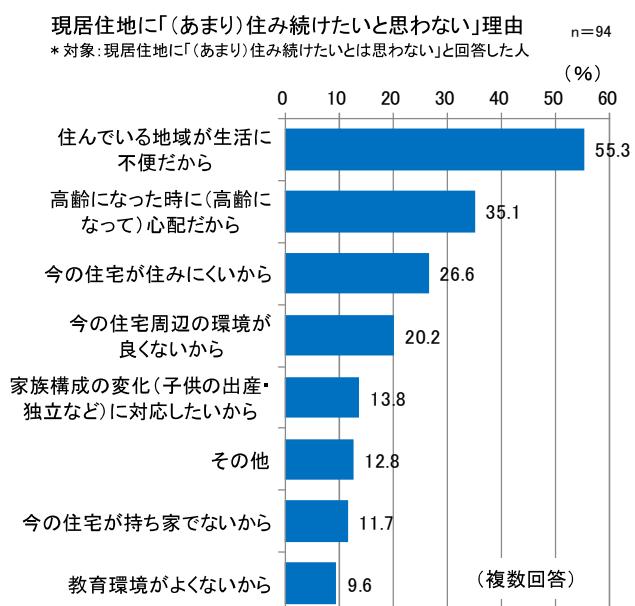


的な人は御所市（25.0%）が最多、宇陀市（20.0%）、五條市（17.6%）なども多い。

2. 現居住地にあまり住み続けたいと思わない理由

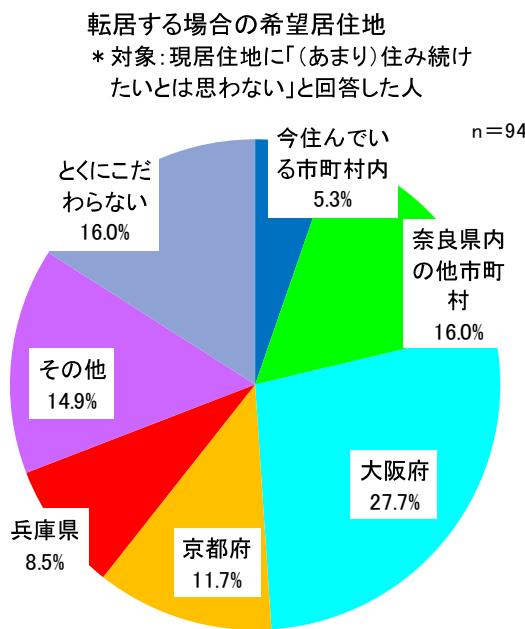
現居住地に「(あまり)住み続けたいとは思わない」と回答した人（n=94）のみに、「(あまり)住み続けたいとは思わない」理由（複数回答）を聞いた結果、「住んでいる地域が生活に不便だから」55.3%が最も多く、次いで「高齢になった時に（高齢になって）心配だから」35.1%、「今の住宅が住みにくいから」26.6%、「今の住宅周辺の環境が良くないから」20.2%、「家族構成の変化（子供の出産・独立など）に対応したいから」13.8%などが続いている。なお、「今の住宅が持ち家でないから」は11.7%、「教育環境がよくないから」は9.6%となっている。

性別でみると、「住んでいる地域が生活に不便だから」は男性（64.1%）が女性（49.1%）より15ポイント多い。また、「今の住宅が住みにくいから」は女性（34.5%）が男性（15.4%）より約19ポイント多い。



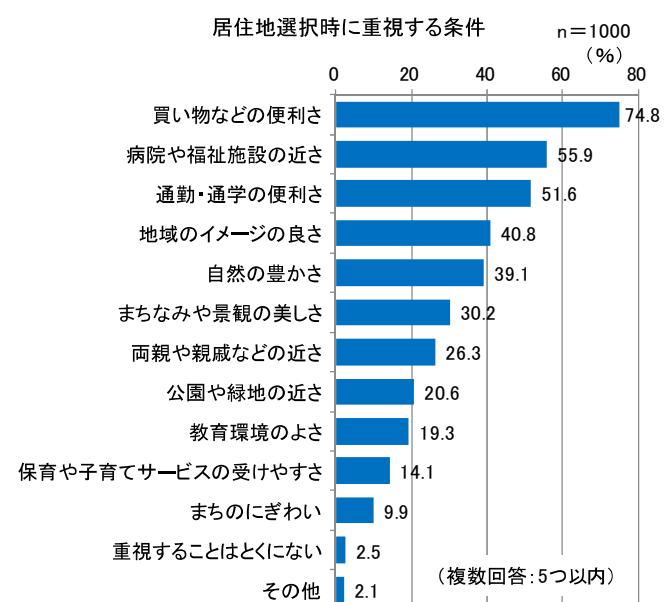
3. 転居する場合の希望居住地

現居住地に「(あまり)住み続けたいとは思わない」と回答した人(n=94)のみに、転居する場合にどちらに住みたいと思うかを聞いた結果、「大阪府」27.7%が最も多く、次いで「奈良県内の他市町村」「とくにこだわらない」各16.0%、「その他」14.9%、「京都府」11.7%、「兵庫県」8.5%が続いている〔県外:62.8%〕。一方、「今住んでいる市町村内」は5.3%と最も少ない。



4. 居住地選択時に重視する条件

自由に居住地を選べると仮定した場合、居住地を選ぶ条件として重視する条件(複数回答:5つ以内)を聞いた結果、「買い物などの便利さ」74.8%が最も多く、次いで「病院や福祉施設の近さ」55.9%、「通勤・通学の便利さ」51.6%、「地域のイメージの良さ」40.8%、「自然の豊かさ」39.1%、「まちなみや景観の美しさ」30.2%、「両親や親戚などの近さ」26.3%、「公園や緑地の近さ」20.6%、「教育環境のよさ」19.3%が続いている。



居住地選択時に重視する条件【上位10項目】[性別・年代別] * 複数回答(5つ以内)

	全体	男性	性別・年代別 (%)					
			15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60~79歳
n	1000	460	16	57	61	86	76	164
買い物などの便利さ	74.8	67.6	43.8	57.9	67.2	67.4	68.4	73.2
病院や福祉施設の近さ	55.9	52.4	25.0	28.1	41.0	45.3	59.2	68.3
通勤・通学の便利さ	51.6	52.6	75.0	61.4	57.4	66.3	59.2	35.4
地域のイメージの良さ	40.8	38.9	31.3	45.6	32.8	37.2	36.8	41.5
自然の豊かさ	39.1	42.2	18.8	21.1	32.8	34.9	43.4	58.5
まちなみや景観の美しさ	30.2	30.0	25.0	29.8	23.0	25.6	34.2	33.5
両親や親戚などの近さ	26.3	21.7	6.3	14.0	29.5	29.1	25.0	17.7
公園や緑地の近さ	20.6	20.9	12.5	19.3	13.1	15.1	14.5	31.1
教育環境のよさ	19.3	19.8	18.8	15.8	27.9	17.4	17.1	20.7
保育や子育てサービスの受けやすさ	14.1	10.7	6.3	14.0	23.0	10.5	13.2	4.3

性年代別でみると、「買い物などの便利さ」は女性50歳代・60-79歳（各89.4%）が多く、「病院や福祉施設の近さ」は女性60-79歳（75.5%）が多い。

居住地を選ぶ条件として最も重視する条件を聞いた結果、「買い物などの便利さ」25.6%が最も多く、次いで「通勤・通学の便利さ」18.3%、「病院や福祉施設の近さ」12.3%、「自然の豊かさ」10.7%が続いている。

5. 奈良県内の他市町村へ転居すると仮定した場合の転居希望先

現在居住している市町村から、奈良県内の他市町村へ転居すると仮定した場合、住みたいと思う優先順位の高い市町村を聞いた結果、1位は「とくにない」38.2%が最も多く、次いで「奈良市」21.4%、「生駒市」10.2%、「橿原市」8.9%、「大和郡山市」6.0%、「香芝市」3.1%、「王寺町」1.9%、「大和高田市」1.8%、「天理市」「桜井市」各1.1%が続いている。

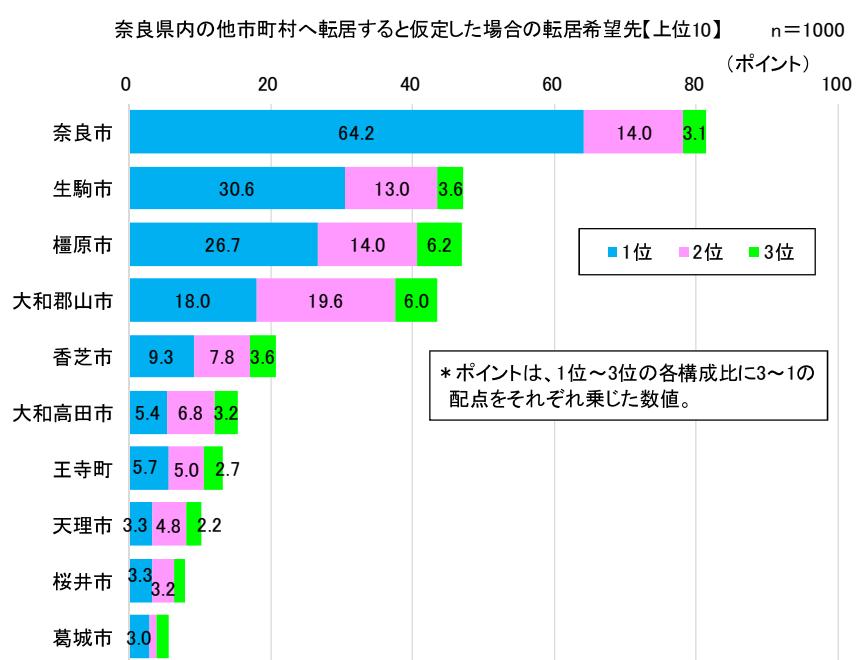
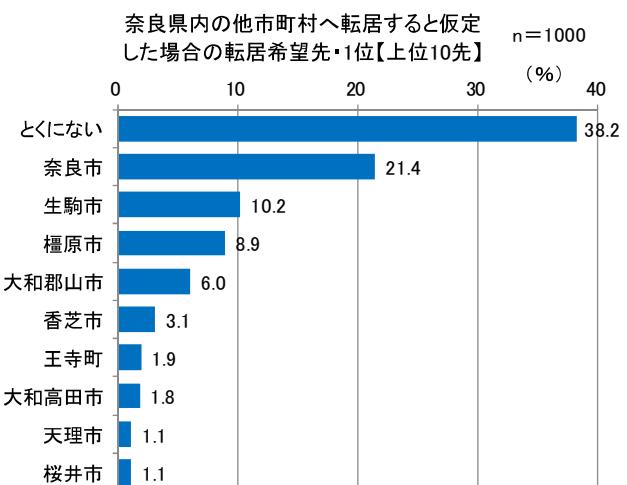
2位は「とくにない」47.4%が最も多く、次いで「大和郡山市」9.8%、「奈良市」「橿原市」各7.0%、「生駒市」6.5%が続いている。

3位は「とくにない」55.7%が最も多く、次いで「橿原市」6.2%、「大和郡山市」6.0%、「生駒市」「香芝市」各3.6%が続いている。

転居希望先を総合的な視点からみるために、「とくにない」を除いて、転居希望先の1位～3位の各構成比に3～1の配点をそれぞれ乗じてウエイトづけ（例：1位の構成比×3）を行って合計ポイ

ントを算出した。

その結果、「奈良市」81.3ポイントが最も多く、その他の地域を大きく引き離している。次いで「生駒市」47.2ポイント、「橿原市」46.9ポイント、「大和郡山市」43.6ポイント、「香芝市」20.7ポイント、「大和高田市」15.4ポイント、「王寺町」13.4ポイント、「天理市」10.3ポイント、「桜井市」8.0ポイントが続いている。



3 世帯の生活の程度・水準、満足度

1. 世帯の生活の程度・水準(前年比)

前年と比べて世帯の生活の程度・水準がどう変化したかを聞いた結果、「同じような状態」64.1%が最も多く、「向上している」は7.6%、「低下している」は20.5%、「わからない」は7.8%となっている。全体の2割、約5人に1人が「低下している」と考えている（図表不掲載）。

性年代別でみると、「向上している」は女性30歳代（18.2%）、男性30歳代（16.4%）が多い。「低下している」は男性・女性とも50歳代・60-79歳が20%台後半とやや多い。

2. 世帯の生活の程度・水準[世間一般との比較]

世間一般と比べて世帯の生活の程度・水準がどのような状況にあると思うかを聞いた結果、「上+中の上」は17.9%、「中の中」38.0%、「中の下+下」34.6%、「わからない」9.5%。

性年代別でみると、「上+中の上」は女性15-19歳（31.3%）、同40歳代（26.9%）、男性15-19歳（25.0）が多く、男性40歳代（9.3%）、同30歳代（9.8%）が少ない。「中の下+下」は男性30歳代（44.3%）、同20歳代（43.9%）が多い。

なお、「上」は2.0%、「下」は8.8%となっている。「下」は女性50歳代（12.9%）がやや多い。

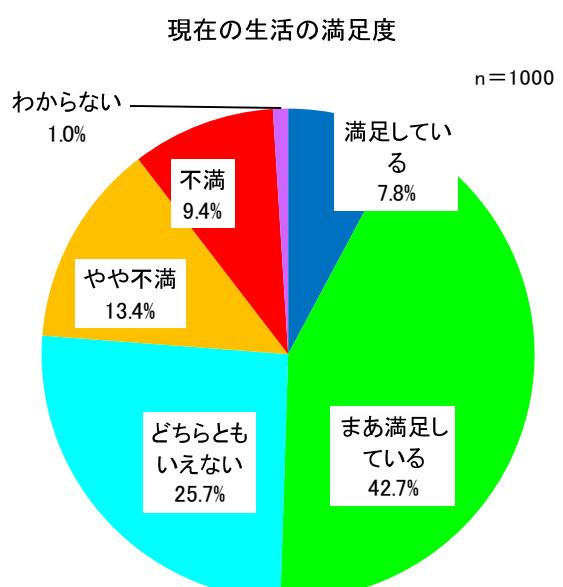
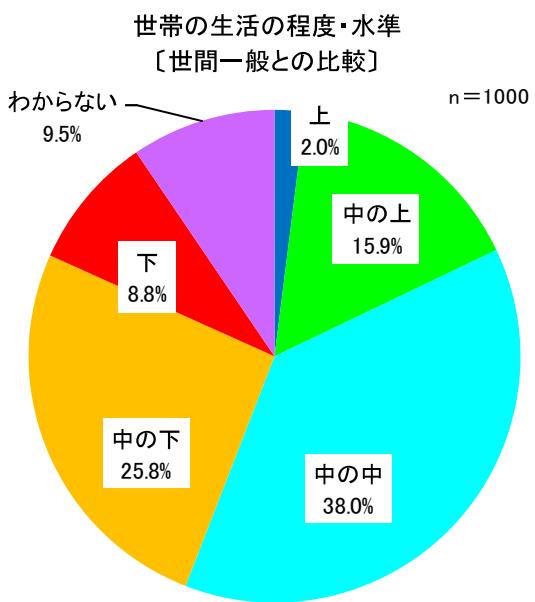
3. 現在の生活に対する満足度

全体として現在の生活にどの程度満足しているかを聞いた結果、「満足（満足している7.8%+まあ満足している42.7%）」は50.5%、「不満（不満9.4%+やや不満13.4%）」22.8%、「どちらともいえない」25.7%、「わからない」1.0%となっている。

性年代別でみると、「満足」は女性20歳代（60.0%）が多く、男性40歳代（34.9%）が少

ない。一方、「不満」は男性40歳代（32.6%）、女性50歳代（29.4%）が多い。

居住地域別でみると、「満足」は葛城市（64.0%）が最多、次いで生駒市・宇陀市・磯城郡（各60.0%）、吉野郡（58.6%）が多い。一方、「不満」は五條市（35.3%）が最多、次いで大和高田市（33.3%）、桜井市（30.2%）が多い。



4 買物・余暇活動などの現状

1. 買物や余暇活動などで県外へ出かける頻度

買物や余暇活動などを楽しむために、大阪や京都など県外へ出かける頻度（通勤や通学のついでを除いた回数）を聞いた結果、全体では「ほぼ毎月1回」19.8%が最も多く、次いで「年に2回程度」17.8%、「年に5~6回」15.9%、「年に1~2回」11.9%、「年に3~4回」10.8%が続いている。なお、「ほとんどない」は13.3%となっている。

頻度の高い順にみると、「ほぼ毎週」7.5%、「年に2回程度」17.8%、「ほぼ毎月1回」19.8%となっており、県民の5割弱（45.1%）が買物や余暇活動などを楽しむために「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけている。

性年代別でみると、「ほぼ毎週」は男性20歳代（24.6%）、女性15~19歳（18.8%）が多い。

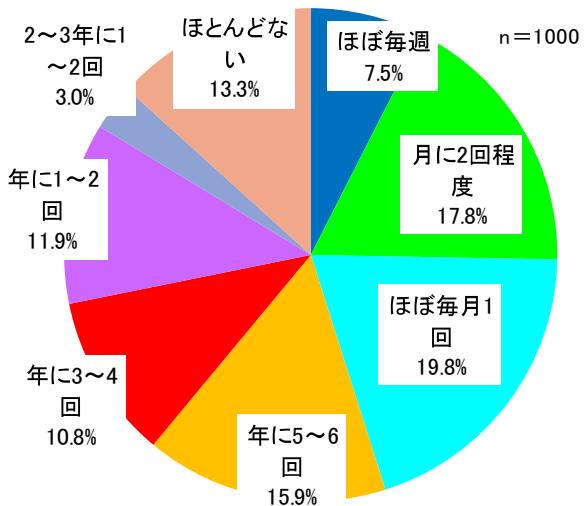
居住地域別でみると、「年に2回程度以上」は生駒市（40.0%）、香芝市（32.6%）が多い。

2. 買物や余暇活動などで県外へ出かける理由

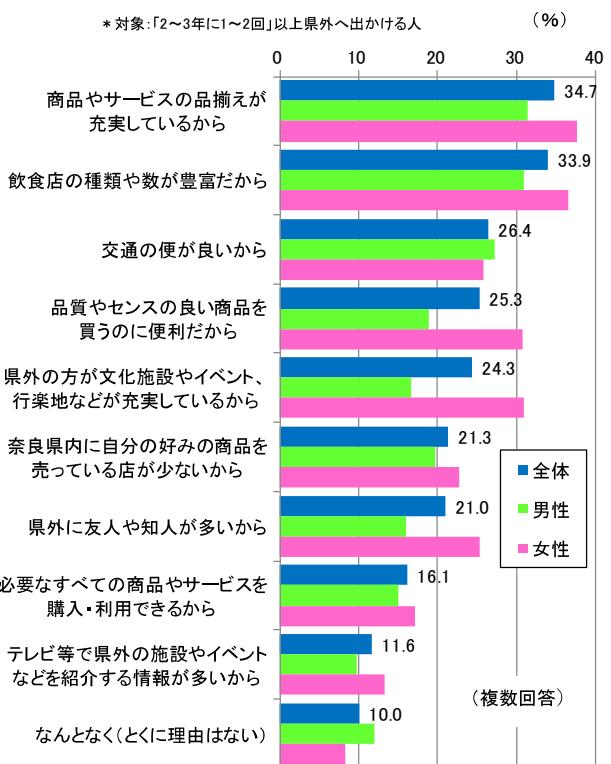
買物や余暇活動などを楽しむために、大阪や京都など県外へ出かける頻度について、「ほとんどない」以外（「ほぼ毎週」～「2~3年に1~2回」）を回答した人（n=867）のみに、県外へ出かける理由（複数回答）を聞いた結果、「商品やサービスの品揃えが充実しているから」34.7%が最も多く、次いで「飲食店の種類や数が豊富だから」33.9%、「交通の便が良いから」26.4%、「品質やセンスの良い商品を買うのに便利だから」25.3%、「県外の方が美術館、ホール等の文化施設やイベント、行楽地などが充実しているから」24.3%、「奈良県内に自分の好みの商品を売っている店が少ないから」21.3%が続いている。「飲食店の種類や数が豊富だから」は、女性

30歳代（51.7%）が最も多い。

買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度（通勤通学除く）



買物や余暇活動などを楽しむために
県外へ出かける理由【上位10項目】
n=867

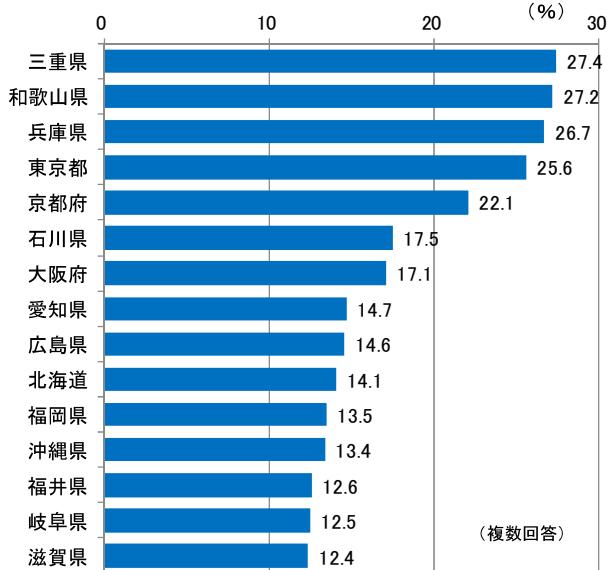


3. 過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県

過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県（複数回答）を聞いた結果、「三重県」27.4%が最も多く、次いで「和歌山県」27.2%、「兵庫県」26.7%、「東京都」25.6%、「京都府」22.1%、「石川県」17.5%、「大阪府」17.1%が続く。なお、「奈良県」は10.6%、「滋賀県」は12.4%。

宿泊地別でみると、「三重県」は男性30歳代（37.7%）が最多、女性40歳代（35.5%）も多い。「東京都」は女性15-19歳・同20歳代（各43.8%）が最多、同30歳代（33.3%）も多い。

過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県【上位15】 n=1000



4. 奈良県内で余暇活動を楽しむ頻度

県内で旅行や社寺散策などの余暇活動を楽しむ頻度を聞いた結果、「ほとんどない」31.4%が最も多く、次いで「年に1~2回」18.7%、「年に5~6回」11.7%、「ほぼ毎月1回」10.1%が続く。

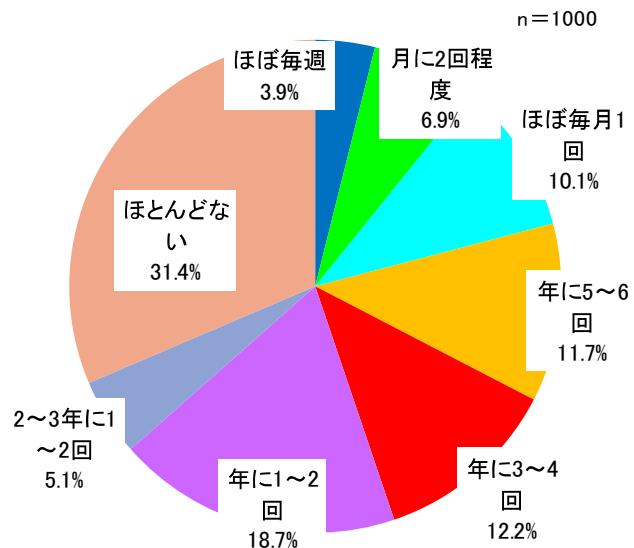
頻度の高い順にみると、「ほぼ毎週」3.9%、「月に2回程度」6.9%、「ほぼ毎月1回」10.1%となっている〔ほぼ毎月1回以上は20.9%〕。

「ほぼ毎月1回以上」は男性60-79歳（26.8%）、女性60-79歳（26.1%）が多い。一方、「ほとん

どない」は男性20歳代（45.6%）、同30歳代（42.6%）、女性20歳代（43.3%）が多い。

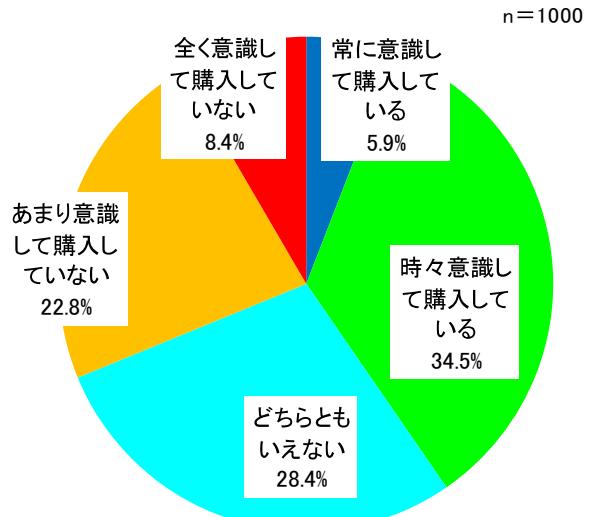
5. 地場産・奈良県産の食材購入に関する意識

奈良県内で旅行や社寺散策などの
余暇活動を楽しむ頻度



食材を購入する際、地場産・奈良県産を意識して購入しているかを聞いた結果、県民の4割が「常に・時々意識して購入している」（5.9%+34.5%）が、同3割は「全く・あまり意識して購

地場産・奈良県産の食材
購入に関する意識



入していない」(8.4%+22.8%)としている。

「常に・時々意識して購入している」は女性60-79歳(64.4%)が最多、「全く・あまり意識して購入していない」は女性20歳代(51.7%)が最も多い。

6. 買物等の主な利用チャネル

買物やサービス消費の主な利用チャネル(自分での購入等のみ)を聞いた結果、奈良県内での購入・利用は「医薬品」93.2%と「美容・理容」90.4%が約9割と多く、次いで「習い事」84.6%、「紳士服(普段着・下着・肌着)」82.2%、「家電製品」78.7%、「家具・インテリア」78.4%が8割前後と多い。一方、「婦人服(外出着・おしゃれ着)」56.7%、「服飾雑貨・アクセサリー」57.7%、「贈答品」64.9%、「化粧品」65.1%は、6割前後と少ない。

県外での購入・利用は、「服飾雑貨・アクセサリー」28.9%と「婦人服(外出着・おしゃれ着)」26.0%が3割弱と多く、「贈答品」22.3%、「紳士服(外出着・おしゃれ着)」22.0%、「くつ・履物」19.6%も約2割と多い。また、ネットでの購入・利用は、「本・雑誌・音楽・映画」17.7%、「化粧品」15.1%、「婦人服(外出着・おしゃれ着)」13.1%、「家電製品」12.9%などが多い。

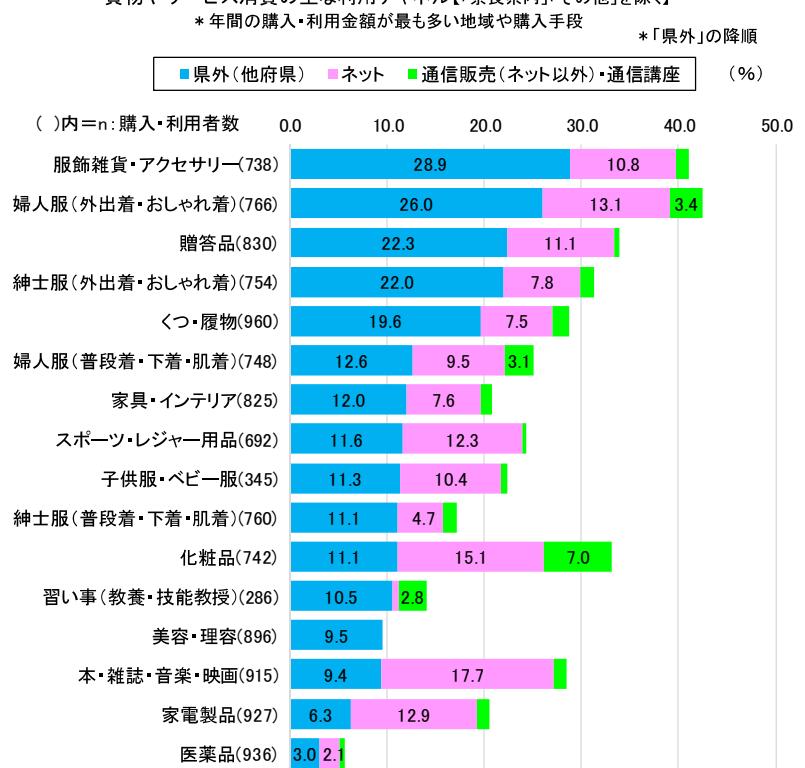
7. 県内での購入・利用が増えたもの

15項目の買物やサービス消費について、5年ほど前と比較して奈良県内での購入・利用が増えたもの(複数回答)を聞いた結果、「とくにない」64.0%が

最も多く、次いで「医薬品」10.2%、「婦人服(外出着・おしゃれ着)」8.7%、「家電製品」8.1%、「婦人服(普段着・下着・肌着)」7.7%、「化粧品」7.6%、「本・雑誌・音楽・映画」7.3%が続いている(図表不掲載)。

買物やサービス消費の利用チャネル * 年間の購入・利用金額が 最も高い地域や購入手段	n 購入・利 用者数	*「奈良県内」の降順 (%)				
		奈良県内	県外(他 府県)	ネット	通信販売 (ネット以 外)・通 信講座	その他
医薬品	936	93.2	3.0	2.1	0.4	1.3
美容・理容	896	90.4	9.5	0.0	0.0	0.1
習い事(教養・技能教授)	286	84.6	10.5	0.7	2.8	1.4
紳士服(普段着・下着・肌着)	760	82.2	11.1	4.7	1.3	0.7
家電製品	927	78.7	6.3	12.9	1.3	0.8
家具・インテリア	825	78.4	12.0	7.6	1.1	0.8
子供服・ベビー服	345	76.2	11.3	10.4	0.6	1.4
スポーツ・レジャー用品	692	74.7	11.6	12.3	0.4	1.0
婦人服(普段着・下着・肌着)	748	73.8	12.6	9.5	3.1	1.1
本・雑誌・音楽・映画	915	71.1	9.4	17.7	1.3	0.4
くつ・履物	960	70.5	19.6	7.5	1.7	0.7
紳士服(外出着・おしゃれ着)	754	67.6	22.0	7.8	1.5	1.1
化粧品	742	65.1	11.1	15.1	7.0	1.8
贈答品	830	64.9	22.3	11.1	0.5	1.2
服飾雑貨・アクセサリー	738	57.7	28.9	10.8	1.4	1.2
婦人服(外出着・おしゃれ着)	766	56.7	26.0	13.1	3.4	0.9

買物やサービス消費の主な利用チャネル【「奈良県内」「その他」を除く】



5

奈良県のプラスイメージ

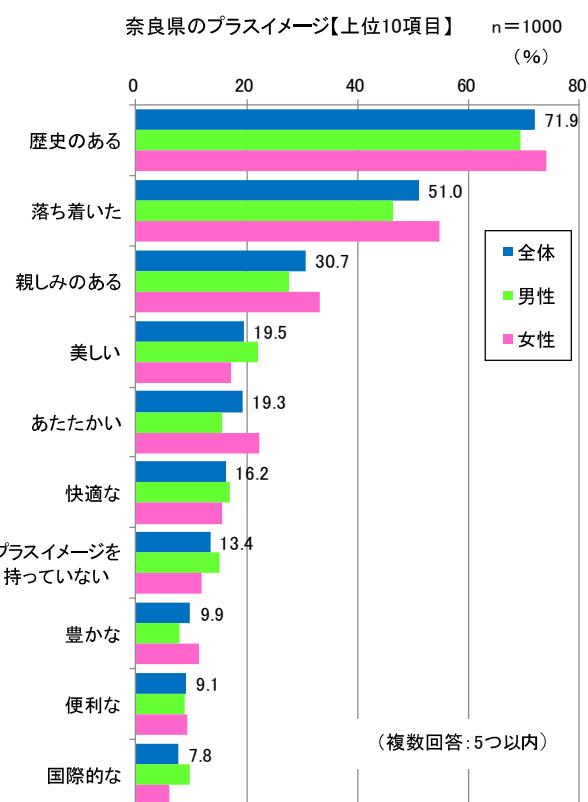
奈良県に対してどのようなプラスイメージ（良い印象）を持っているか、18の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの（複数回答：5つ以内）を聞いた結果、全体では「歴史のある」71.9%が最も多く、次いで「落ち着いた」51.0%、「親しみのある」30.7%、「美しい」19.5%、「あたたかい」19.3%、「快適な」16.2%が続いている。なお、「プラスイメージを持っていない」は13.4%。

性別でみると、男性は上位4位まで、女性は上位3位まで全体と同順位になっている。概ね、女性はプラスイメージを持つ人の割合が男性よりもやや多い。「落ち着いた」は女性（54.8%）が男性（46.5%）より約8ポイント多く、「あたたかい」は女性（22.4%）が男性（15.7%）より約7ポイント多い。

性年代別でみると、「歴史のある」は男女とも60-79歳が多く、特に女性60-79歳（82.4%）が多い。「落ち着いた」は女性20歳代（66.7%）が多く、「親しみのある」は同30歳代（47.0%）が多い。「美しい」は男性60-79歳（35.4%）が多く、「あたたかい」は女性30歳代（34.8%）が

多い。

居住地域別でみると、「歴史のある」は磯城郡（86.7%）、宇陀市（85.0%）が多く、「親しみのある」は宇陀市（50.0%）、磯城郡（46.7%）が多い。



奈良県のプラスイメージ(上位10項目)[性別・年代別] * 複数回答(主なもの5つ以内)											(%)				
	全体	男性	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60~79歳	女性	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60~79歳
			年齢	年齢	年齢	年齢	年齢	年齢		年齢		年齢		年齢	
n	1000	460	16	57	61	86	76	164	540	48	60	66	93	85	188
歴史のある	71.9	69.3	62.5	61.4	67.2	65.1	71.1	75.0	74.1	58.3	65.0	74.2	68.8	76.5	82.4
落ち着いた	51.0	46.5	18.8	50.9	44.3	37.2	55.3	49.4	54.8	52.1	66.7	62.1	52.7	43.5	55.3
親しみのある	30.7	27.6	12.5	17.5	27.9	23.3	31.6	32.9	33.3	22.9	38.3	47.0	33.3	27.1	32.4
美しい	19.5	22.2	0.0	12.3	19.7	12.8	18.4	35.4	17.2	12.5	10.0	19.7	7.5	20.0	23.4
あたたかい	19.3	15.7	12.5	10.5	16.4	12.8	19.7	17.1	22.4	18.8	18.3	34.8	21.5	18.8	22.3
快適な	16.2	17.0	18.8	17.5	13.1	14.0	15.8	20.1	15.6	12.5	23.3	19.7	20.4	4.7	14.9
プラスイメージを持っていない	13.4	15.2	31.3	19.3	11.5	19.8	15.8	11.0	11.9	14.6	10.0	13.6	16.1	11.8	9.0
豊かな	9.9	8.0	6.3	7.0	8.2	4.7	7.9	10.4	11.5	12.5	15.0	15.2	10.8	5.9	11.7
便利な	9.1	8.9	0.0	5.3	13.1	5.8	6.6	12.2	9.3	2.1	16.7	6.1	6.5	4.7	13.3
国際的な	7.8	9.8	18.8	8.8	11.5	7.0	11.8	9.1	6.1	4.2	8.3	7.6	6.5	7.1	4.8

6

奈良県のマイナスイメージ

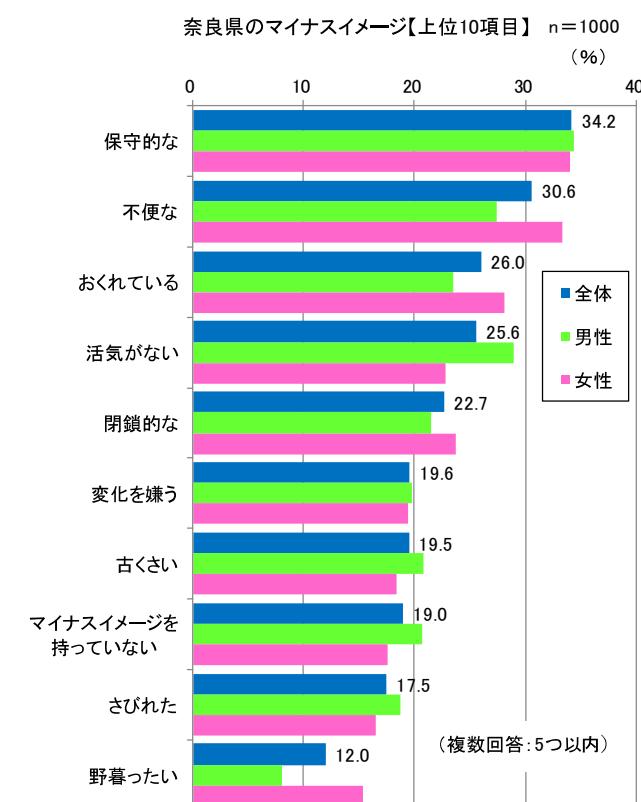
奈良県に対してどのようなマイナスイメージ（悪い印象）を持っているか、18の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの（複数回答：5つ以内）を聞いた結果、全体では「保守的な」34.2%が最も多く、次いで「不便な」30.6%、「おくれている」26.0%、「活気がない」25.6%、「閉鎖的な」22.7%、「変化を嫌う」19.6%、「古くさい」19.5%が続く。なお、「マイナスイメージを持っていない」は19.0%。「さびれた」17.5%も2割弱とやや多い。

性別でみると、男性は上位1位が、女性は上位3位までが全体と同順位。マイナスイメージを持つ人の割合は、女性は概ね年代が高いほど多く、男性は40歳代と60-79歳でやや多い。「不便な」は女性（33.3%）が男性（27.4%）より約6ポイント多く、「野暮ったい」は女性（15.4%）が男性（8.0%）より約7ポイント多い。

性年代別でみると、「保守的な」は男女とも60-79歳が多く、とくに女性60-79歳（49.5%）が多い。「不便な」は女性20歳代（40.0%）、同30歳代（39.4%）が多く、「おくれている」は同20歳代（33.3%）が多い。「活気がない」は男性

30歳代（34.4%）が多く、「閉鎖的な」は女性60-79歳（31.9%）、男性15-19歳（31.3%）が多い。

居住地域別でみると、「保守的な」は宇陀市（55.0%）、磯城郡（53.3%）が多く、「不便な」は御所市（58.3%）、桜井市（48.8%）、五條市（47.1%）が多い。



奈良県のマイナスイメージ(上位10項目)[性別・年代別] * 複数回答(主なもの5つ以内)

	全体	男性	性別・年代別 (%)						
			15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-79歳	女性
n	1000	460	16	57	61	86	76	164	540
保守的な	34.2	34.3	12.5	19.3	32.8	37.2	31.6	42.1	34.1
不便な	30.6	27.4	31.3	33.3	18.0	32.6	25.0	26.8	33.3
おくれている	26.0	23.5	25.0	19.3	32.8	24.4	21.1	22.0	28.1
活気がない	25.6	28.9	6.3	15.8	34.4	31.4	31.6	31.1	22.8
閉鎖的な	22.7	21.5	31.3	5.3	26.2	26.7	21.1	22.0	23.7
変化を嫌う	19.6	19.8	12.5	10.5	16.4	23.3	26.3	20.1	19.4
古くさい	19.5	20.9	6.3	24.6	24.6	19.8	22.4	19.5	18.3
マイナスイメージを持っていない	19.0	20.7	31.3	22.8	16.4	19.8	17.1	22.6	17.6
さびれた	17.5	18.7	25.0	21.1	13.1	18.6	22.4	17.7	16.5
野暮ったい	12.0	8.0	0.0	5.3	6.6	5.8	10.5	10.4	15.4

7

奈良県の経済・産業について

1. 奈良県の経済・産業に対する認識

奈良県の経済・産業に対して持っている認識を聞いた結果、「発展・成長している」は7.6%と少なく、「衰退している」27.4%、「どちらとも言えない」50.7%、「わからない」14.3%となっている。全体の3割弱、4人に1人が奈良県の経済・産業が「衰退している」と捉えている。

性別でみると、「発展・成長している」は男女でほとんど差異はないが、「衰退している」は男性（33.7%）が女性（22.0%）より約12ポイント多く、男性の評価がやや厳しいと言える。

性年代別でみると、「発展・成長している」は女性40歳代（3.2%）で少ない。一方、「衰退している」は男性50歳代（40.8%）が多い。また、女性20歳代は40.0%が「わからない」と回答しており、奈良県経済等への関心の低さが伺える。

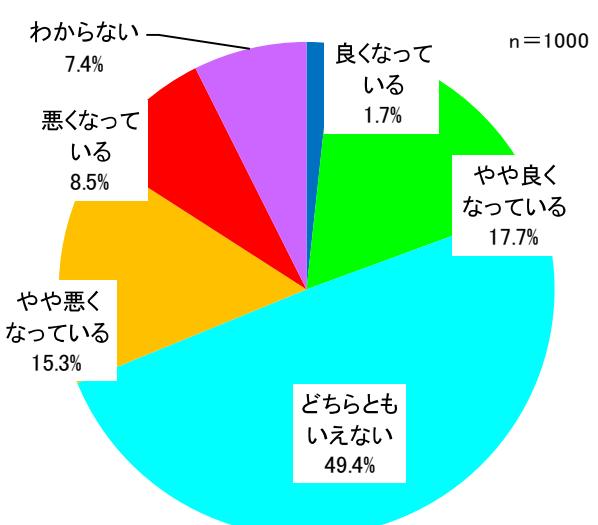
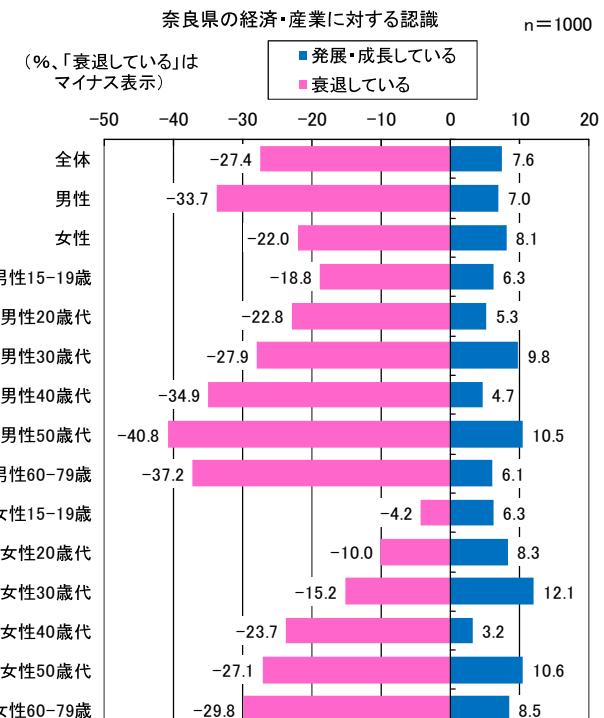
居住地域別でみると、「発展・成長している」は天理市（20.8%）が多いが、五條市、御所市は該当なし（0.0%）。「衰退している」は宇陀市（55.0%）が多い。

2. 5年後の奈良県経済の状況

現在と比較して、5年後の奈良県経済の状況がどのようにになっていると思うかを聞いた結果、「(やや) 良くなっている」（1.7%+17.7%）が19.4%、「(やや) 悪くなっている」（8.5%+15.3%）が23.8%となっており、「(やや) 悪くなっている」が4.4ポイント多い。「どちらともいえない」は49.4%、「わからない」は7.4%。

年代別でみると、「(やや) 良くなっている」は女性20歳代（30.0%）が多い。一方、「(やや) 悪くなっている」は男性50歳代（38.2%）、同40歳代（37.2%）が多い。

居住地域別でみると、「(やや) 良くなっている」は生駒市（27.5%）が多く、「(やや) 悪くなっている」は宇陀市・磯城郡（各40.0%）が多い。



3. 奈良県において重点的に改善・充実に取り組むべきこと

奈良県において、当面、重点的に改善・充実に取り組んでいくべきこと、とくに必要であると思うこと（複数回答：5つ以内）を聞いた結果、「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」40.0%が最も多く、次いで「福祉・介護サービスの充実」35.1%、「生活道路の整備、渋滞の緩和」34.1%、「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」32.6%、「雇用機会の拡大に結びつくような産業振興」28.3%、「少子化対策および子育て支援」27.6%、「治安・防災対策の強化による安全・安心なまちづくり」25.1%、「就業支援、雇用対策」23.1%が続いている。

「県民の意見や要望が政治・施策に反映される仕組みづくり」17.0%、「県民への情報公開・情報提供の充実」7.8%の意見も1～2割程度ある。

性別でみると、「福祉・介護サービスの充実」は女性（39.1%）が男性（30.4%）より約9ポイント多い。また、「生活道路の整備、渋滞の緩和」は男性（39.1%）が女性（29.8%）より約9ポイント多い。

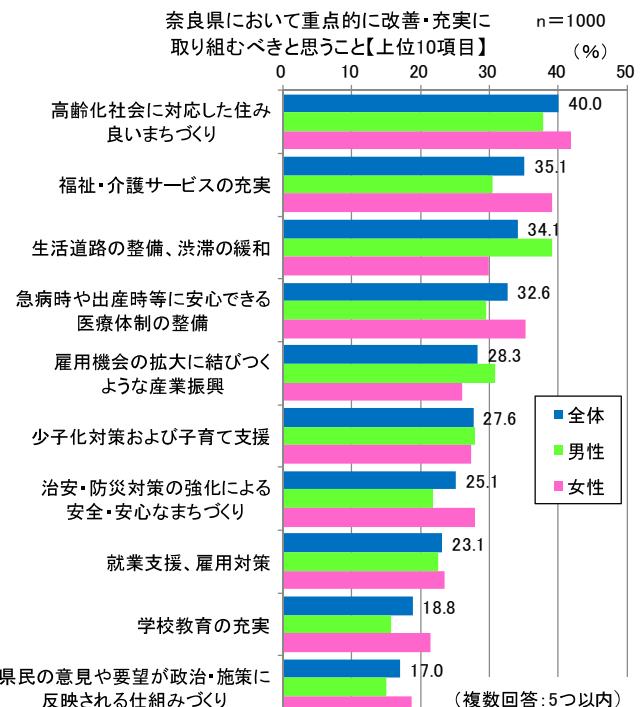
性年代別でみると、男女とも20歳代・30歳代では「少子化対策および子育て支援」が多く、とくに女性30歳代（51.5%）が多い。

男女とも50歳代・60-79歳では「高齢化社会に

対応した住み良いまちづくり」が多く、とくに女性60-79歳（64.9%）が多い。

居住地域別でみると、「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」は桜井市・宇陀市・磯城郡が約6割と多く、「福祉・介護サービスの充実」は宇陀市・磯城郡が5割と多い。

「少子化対策および子育て支援」は五條市が4割と多く、「就業支援、雇用対策」は桜井市・吉野郡が4割と多い。



奈良県において重点的に改善・充実に取り組むべきこと【上位10項目】[性別・年代別] * 複数回答(5つ以内) (%)										
	全体	男性	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～79歳	女性	15～19歳
n	1000	460	16	57	61	86	76	164	540	48
高齢化社会に対応した住み良いまちづくり	40.0	37.8	18.8	15.8	18.0	27.9	48.7	54.9	41.9	20.8
福祉・介護サービスの充実	35.1	30.4	6.3	14.0	13.1	33.7	32.9	42.1	39.1	10.4
生活道路の整備、渋滞の緩和	34.1	39.1	25.0	26.3	41.0	45.3	43.4	39.0	29.8	14.6
急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備	32.6	29.6	18.8	10.5	18.0	25.6	34.2	41.5	35.2	10.4
雇用機会の拡大に結びつくような産業振興	28.3	30.9	6.3	21.1	27.9	37.2	35.5	32.3	26.1	6.3
少子化対策および子育て支援	27.6	27.8	0.0	31.6	39.3	27.9	23.7	26.8	27.4	16.7
治安・防災対策の強化による安全・安心なまちづくり	25.1	21.7	6.3	21.1	21.3	16.3	26.3	24.4	28.0	14.6
就業支援、雇用対策	23.1	22.6	12.5	15.8	24.6	27.9	26.3	20.7	23.5	6.3
学校教育の充実	18.8	15.7	25.0	19.3	29.5	16.3	11.8	9.8	21.5	25.0
県民の意見や要望が政治・施策に反映される仕組みづくり	17.0	15.0	6.3	19.3	13.1	16.3	13.2	15.2	18.7	18.8

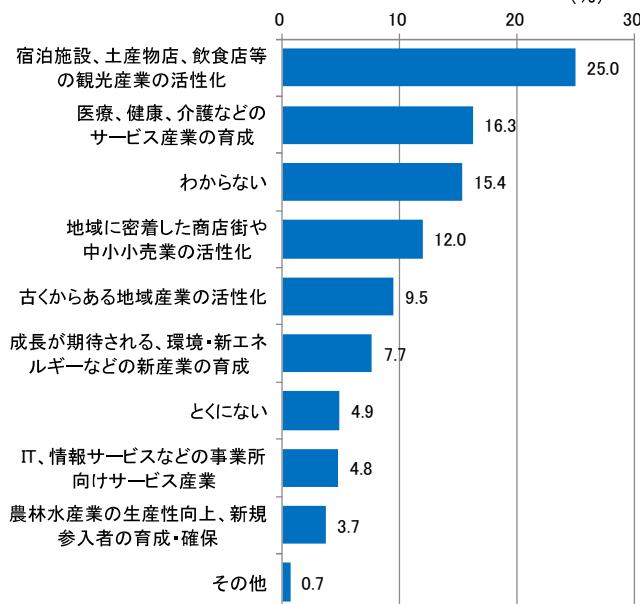
4. 奈良県経済の活性化や雇用機会の確保・拡大のために力を入れるべき産業分野

奈良県経済の活性化や雇用機会の確保・拡大のために、当面どのような産業分野に力を入れていくべきと考えるかを聞いた結果、「宿泊施設、土産物店、飲食店等の観光産業の活性化」25.0%が最も多く、次いで「医療、健康、介護などのサービス産業の育成」16.3%、「わからない」15.4%、「地域に密着した商店街や中小売業の活性化」12.0%、「古くからある地域産業の活性化」9.5%、「成長が期待される、環境・新エネルギーなどの新産業の育成」7.7%が続いている。

性年代別でみると、「医療、健康、介護などのサービス産業の育成」は女性60-79歳（24.5%）、男性60-79歳（22.6%）が多い。

居住地域別でみると、「宿泊施設、土産物店、飲食店等の観光産業の活性化」は生駒市（40.0%）が多く、「地域に密着した商店街や中小売業の活性化」は五條市（23.5%）が多い。

奈良県経済の活性化や雇用機会の確保・拡大のために力を入れるべき産業分野 n=1000 (%)



総括

■県民による県内での余暇活動の機会を増やす

買い物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度は、県民の5割弱が「ほぼ毎月1回以上」となっているが、県内で旅行や社寺散策などの余暇活動を楽しむ頻度で「ほぼ毎月1回以上」としている県民は、約2割にとどまっている。

気軽に楽しめるイベントの開催や観光ルートの発掘・紹介等により、県民による県内での余暇活動の機会増大を積極的に図っていくべきと考える。

■情報発信の強化などによりイメージの向上を

奈良県について県民の7割が「歴史のある」、同5割が「落ち着いた」というプラスイメージを持っているが、一方で3人に1人が「保守的な」「不便な」、4人に1人が「おくれている」「活気がない」などのマイナスイメージを持っている。また、全体の3割弱、4人に1人が奈良県の経済・産業は「衰退している」と捉えている。

このようなマイナスイメージなどは、県民の県外での就業や消費、若者の転出超過などの一因にもなっていると推測される。経済の活性化や暮らしやすい街づくりの推進、奈良県に関する情報発信の強化などにより、県民が抱く奈良県のイメージの向上に努めていくことが期待される。

■高齢化社会に対応した住み良いまちづくり

奈良県で重点的に改善・充実に取り組むべき課題として、県民の4割弱が「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」、同3割が「福祉・介護サービスの充実」「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」をあげている。人口減少・高齢化が進む奈良県において、幅広い年代の県民が安心して暮らせる住環境整備や福祉・介護、医療の充実は最重要課題と言える。 (島田清彦)

参考

調査要領・回答者の概要

【調査要領】

①調査実施時期

2019年3月22日（金）～3月25日（月）

②調査対象（依頼数）…奈良県在住者7,042人

有効回答数1,000人

③調査方法

株インテージ（市場調査・ネット調査会社）

に登録しているネットモニター（15～79歳）に対してインターネット上での回答を依頼。

【回答者の概要】

①性別

「男性」46.0%（460人）、「女性」54.0%（540人）。

②年齢

「60～79歳」35.2%が最も多く、次いで「40歳代」17.9%、「50歳代」16.1%、「30歳代」12.7%が続いている。

*性年代別的人数は、2018年10月1日現在の奈良県推計人口の同構成比に準じる割合となっている。但し、ネット調査の特性上、70歳以上の回答者が少くなるため、不足数を60歳代で補填している。また、「男性15～19歳」の不足数は同年代の女性で補填している。

③未既婚・世帯構成等

「既婚者」65.2%、「未婚者」34.8%。

「親と子（2世代同居）」50.0%が最も多く、次いで「夫婦のみ」27.8%、「ひとり暮らし」11.7%、「親と子と孫（3世代同居）」7.8%が続いている。

④居住市町村

「奈良市」28.4%が最も多く、次いで「橿原市」9.7%、「生駒市」8.0%、「大和郡山市」7.4%、「大和高田市」5.1%が続いている。

⑤居住年数

「30年以上」58.4%が最も多く、次いで「20～

30年末満」19.8%、「10～20年末満」13.0%が続いている。

⑥職業

「会社員」27.0%が最も多く、次いで「パート・アルバイト」17.8%、「専業主婦（主夫）」16.7%、「年金生活者」10.2%が続いている。

